

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

ミヨシ電子株式会社 広島事業所

(2) 事業所の所在地

広島県 三次市 東酒屋町306

(3) 業種

2814 集積回路製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度を基準年度とし、令和5年度から令和7年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

(ミヨシ電子環境方針より)

ミヨシ電子は地球環境保全への取組を経営の重要課題の一つとして事業経営に組入れ、事業活動、製品及びサービス等全てに適用し、また、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めると共に、汚染の予防、持続可能な資源の活用、気候変動の緩和、生物多様性への配慮等を考慮した活動を行って参ります。

- 環境重点管理テーマとして以下の事項に取組みます。
 - 開発段階での環境配慮設計を強化推進する
 - 環境配慮部材を優先使用(グリーン調達)する
 - 廃棄物のゼロエミッションへ取組む
 - エネルギー使用量及び二酸化炭素排出量を削減する
 - 環境活動に係る情報を積極的に開示する
テーマ達成のため、環境目的・目標を設定し、具体的な活動の展開を図ります。
- 環境関係法規、条例及びミヨシ電子が同意可能なその他の要求事項を順守します。
- 関係官庁、地域住民、取引先と積極的なコミュニケーションに努め、また、地域社会との調和・貢献を図ります。
- 環境方針は環境教育、広報活動等によりミヨシ電子全従業員に周知徹底します。
- この環境方針は、社内外に公開します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 (3) 年度	令和 (4) 年度
二酸化炭素	7,663	7,484

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
二酸化炭素	排出無し	

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
メタン	排出無し	
一酸化二窒素	排出無し	
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)	排出無し	

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 (3) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 (7) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	7,663	4.0	307	7,356
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方	令和3年度を基準年度にし、年1%削減を目標とします。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位置量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k1)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	エネルギーの削減	省エネ法の基準に基づきエネルギー消費量（電気+熱）を年1%削減する。	省エネ機器の導入 老朽化設備の更新 設備メンテの計画的な実施 省エネ啓発活動の実施
2	CO2排出量の削減	動力設備の省エネ、製造現場の効率化及び省エネにより、2021年度比売上高原単位で2025年度に4%削減する。	省エネ機器の導入 老朽化設備の更新 設備メンテの計画的な実施 省エネ啓発活動の実施
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	クリーン電力の購入	2022年度CO2排出量から15%相当分 (1122t-CO2)
2		
3		

○ その他の取組

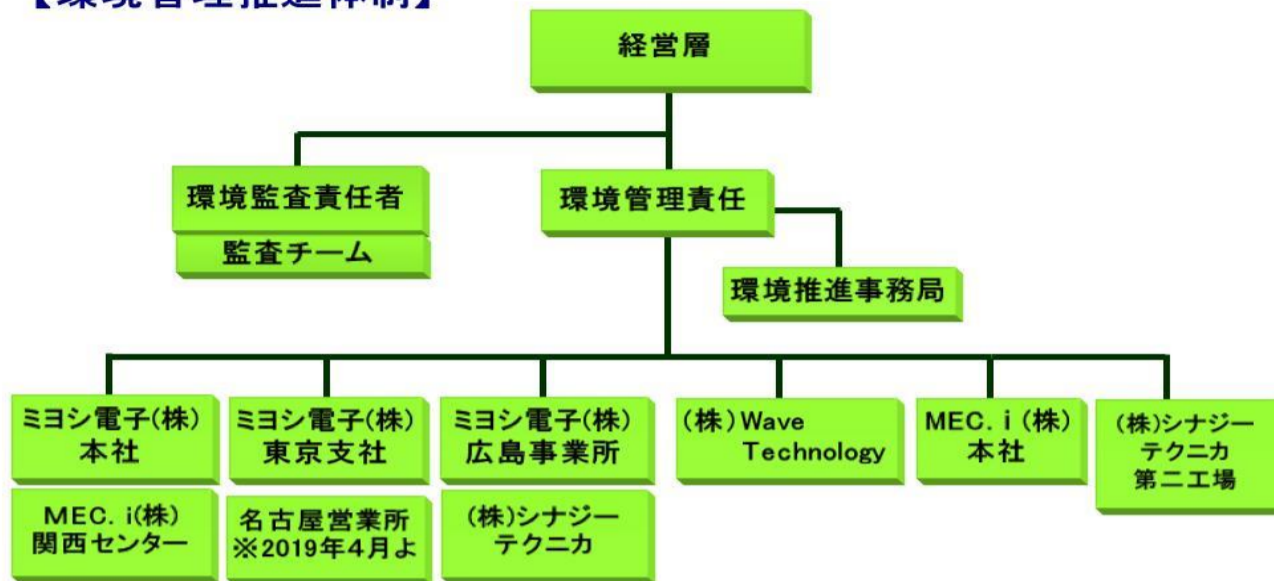
	項 目	数値目標	具体的な取組
1	D f E の取組み推進	年度ごとのアセスメントによる製品の改善ポイントを10以上とする。	・アセスメントによる製品の改善
2	水の有効利用		・老朽化した水冷式設備の空冷化 ・水使用量の見直し
3	ステークホルダーへの積極的な情報提供		・環境報告書の内容の充実、改良
4	地域貢献	地域貢献活動の企画推進	・1回/年の工業団地内清掃の計画・実施 ・その他、地域清掃活動への参加
5	廃棄物総量の縮減	2019年度売上高原単位を維持する。9.06（kg/百万円）	・廃棄物の受入抑制、利材化推進 ・分別の徹底、リサイクル率の向上
6	紙使用量の削減	2021年度売上高原単位に対して2025年度までに4%削減する	・資料、記録類の電子化 ・紙の節約

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

【環境管理推進体制】



(2) 実施状況の点検・評価

- ・ 1回／年 環境マネジメントレビューを開催し、環境管理の取組状況を経営層へレビュー・経営層の評価を実施する。
- ・ 環境マネジメントレビューにて環境管理計画の見直しを実施する。
- ・ 四半期毎に環境管理計画のフォローを実施する。

(3) 計画書等の公表

当社の環境報告書で公表する。